

帯の建築—連なる分岐形態によるアートコンプレックスの設計—

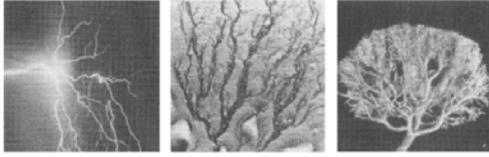
Branching Morphogenesis

正会員 ○渡会実穂*
正会員 ※石川孝重**

○WATARAI Miho*
※ISHIKAWA Takashige**

* 日本女子大学大学院家政学研究科住居学専攻
** 日本女子大学家政学部住居学科教授 (※設計指導)

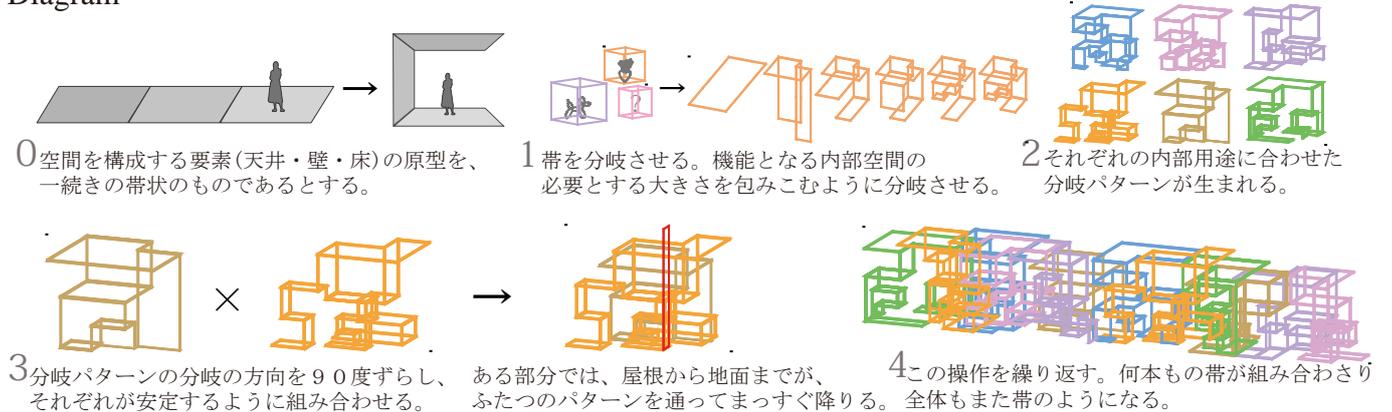
* Graduate Student, Graduate School of Human Sciences and Design, Japan Woman's Univ.
** Prof. Department of Housing and Architecture, Japan Women's Univ., Dr.Eng. (※Adviser)



河川、葉脈、道路網…自然界や社会の多くのものにみられる分岐形態を建築に応用し、都市におけるアートコンプレックスを提案する。



Diagram



Elevation



所在地：東京都新宿区内藤町 11 番地 新宿御苑
 主な用途：複合的美術館
 敷地面積：27600m²
 建築面積：27600m²
 延床面積：4100m²
 キーワード：複合施設・都市・路地

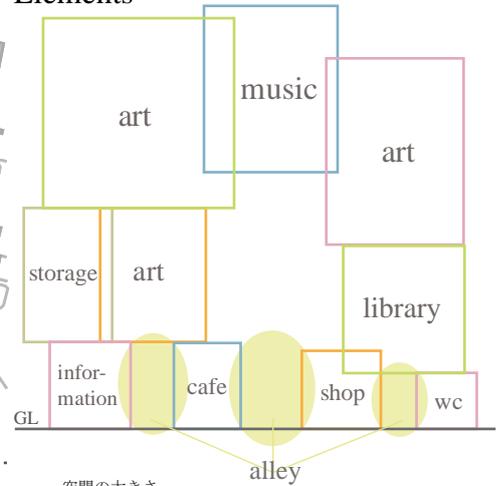
Location：Shinjukugyoen,11,Naitouchou,Shinjuku-ku,Tokyo
 Main Use：Complex Museum
 Site Area：27600m²
 Building Floor Area：27600m²
 Total Floor Area：4100m²
 Keywords：Complex, Urban, alley

Site



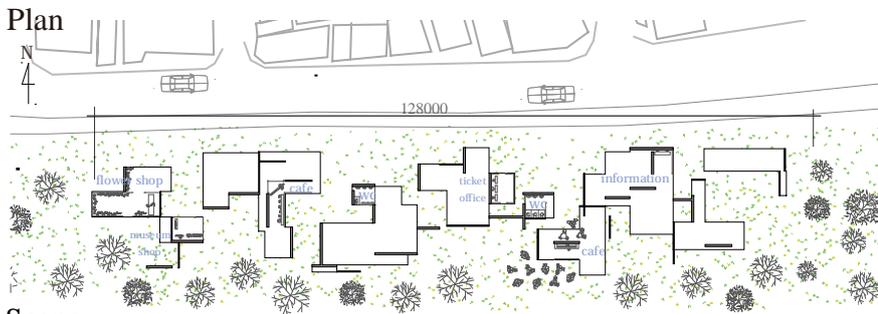
新宿御苑の北側
 北面は高層ビルの建ち並ぶ都会の雰囲気を持つ新宿の街に向かい
 南面は新宿御苑の緑に向かう。

Elements



- 空間の大きさ
- big アート用の空間 (大きな美術作品、音楽会、演劇…)
 - middle 絵画や彫刻を展示する空間 収納室、図書スペース
 - small カフェ、ショップ、案内所、トイレ…
ポイド空間→広場/表出空間/小路

Plan



Scene



新宿御苑の豊な緑と、高層ビル群の境界面。ここに帯を並べる。
 この帯は分岐しながら空間を包みこみ、さらにこれらは絡み合う。美術展示を主とした複合施設。

殺風景な都市の歩道を行く人は、半屋外的で路地のような1階の賑わいにひきつけられ迷い込む。ここはまるで木の下のような空間。
 お花屋さんの植木鉢や、カフェのテラス席、お店の外の広場で走りまわる子どもが見える。
 見上げるとアート作品がちらりと見え、どこからか音楽会の音が聴こえてくる。
 新宿御苑で遊んでいた親子、仕事が終わって駅へ向かう途中にふいに訪れた人。両側から来た人が混ざりあう。

上へあがる。さっき見えたアート作品を鑑賞する。周りを見渡すと、少し遠くでは音楽会をしている部屋が見える。ちょっと下には図書スペースで休憩する人が。向こうには他の作品を鑑賞している人がいる。1階ではぼこぼこ部屋が並べられていたが、ここでは各部屋は連なっているのだ。
 少し遠くでは音楽会をしている部屋が見える。ちょっと下には図書スペースで休憩する人が。向こうには他の作品を鑑賞している人がいる。

帯によって包まれた空間は大から小のさまざまな大きさを持ち、それぞれが異なるレベルの床をもって連なる。
 外から見ると、建物を抜けて向こうの空が見える。中の人は長い建物の中で、遠くが見えたり囲われたり、さまざまな距離で視線が透過していく。
 ここで人は散歩のような体験をするのだ。何本もの帯が建築となり、新宿御苑の緑と高層ビル群とをゆるやかにつないでいく。



半屋外空間のバナーは
 カフェやお店ににぎわう

向こうの部屋が見える

帯に切り取られた、新宿の風景